

まちも元気！



答申書を渡す委員長の谷口博文九州大学教授(中央)は、「人口減の影響を受ける若い世代への説明」を特に求めた

市は将来的な人口減少と税収減を見据え、平成27年度から策定作業を行っていた「糸島市公共施設等総合管理計画」(案)について、外部有識者と市民による検討委員会を設置し、2年間にわたり協議してきました。2月3日、同委員会は答申書を月形市長に提出しました。

同委員会は、「平成72年度までに公共施設の延べ床面積を25%削減する」とした計画を「適切」と評価。市民への十分な説明と、世代を超えて理解を得る努力を求めました。市長は「大変厳しい内容ですが、将来にわたって持続可能なまちづくりのために尽力します」と語りました。

01

将来にわたって持続可能なまちづくりのために

公共施設の延べ床面積を44年間で25%削減する方針



自然の恵みから生まれる糸島の食材の豊富さに感動する参加者(写真は「またいちの塩」製塩所)

02

まちの雰囲気を感じ移住のイメージ高める

豊かさ実感バスツアー

6組9人が1泊2日で糸島を満喫

糸島市を訪れたことはないが移住に関心がある人を対象に、2月11・12日、宿泊を伴うバスツアーを開催しました。

神奈川、大阪、広島などから訪れた、家族連れを含めた6組9人が参加。市内ツアー「ちびたび」のガイドで実績があるオフィスパールの説明を聞きながら、焼きガキや地元食材を使用した食事を楽しみ、糸島市図書館二文館、クラフト工房、製塩所、直売所、雷山千如寺や桜井神社などを見学。先輩移住者とも交流しました。

2日間で食、産業、自然、歴史・文化など、糸島をまるごと体験した参加者からは、「移住に対して具体的なイメージを高めることができた」などの感想が寄せられました。

03

熊本地震被災地で
ごみ収集支援

一般廃棄物収集委託業者3社に熊本市から感謝状

昨年4月に発生した熊本地震。さまざまな量の災害廃棄物、および一般ごみの収集運搬を支援しようと、市の一般廃棄物収集委託事業者「(株)環境技研」「(株)糸島環境開発」「(株)二丈環境整備センター」の3社も、5月初旬から延べ17台のパッカー車を送り込み、延べ34人が従事しました。

このたび、熊本市から支援に対する感謝状が届いたことを受け、2月9日、3社の代表が月形市長を訪問。「被災者の皆さんの役に立ててうれしかった。それとともに、私たちの通常業務の重要性も再認識できました」と振り返りました。



市内業務に支障が出ないよう、ゴールデンウィークや休日に被災地のごみ収集支援に従事した3社の各代表者と月形市長。